

平成28年度 発達障害研究所 所内セミナープログラム

日時 平成29(2017)年3月8日(水) 09時00分～16時00分
9日(木) 09時00分～15時45分

場所 管理棟講堂

発表時間 一人20分(発表:12分 質疑応答:8分)

3月8日(水)

所長あいさつ(09:00-09:05)

機能発達学部(9:05-10:05)

1. 伊東保志 重症心身障害児(者)施設における実態調査システムの開発
2. 中村みほ 染色体欠失部位が同一のウィリアムズ症候群における視空間認知機能の発達過程の多様性
3. 乾 幸二 介在細胞の機能計測

休憩(10:05-10:15)

発生障害学部(10:15-11:35)

1. 中山敦雄 発生障害学部の研究の状況
2. 川口禎晴 自閉症関連因子TSC2の可逆的アセチル化による機能制御
3. 深田斉秀 ドパミン神経伝達へのタンパク質アセチル化修飾の関与
4. 松木 亨 転写関連分子SONが脳の発達に果たす役割

休憩(11:35-13:30)

病理学部(13:30-14:30)

1. 河内 全 組織透明化による脳室周囲白質軟化症モデルの解析
2. 榎戸 靖 ライソゾームによるオリゴデンドロサイト分化制御機構の解析
3. 稲村直子 幼若期のミエリン形成異常がもたらす脳発達障害の病態解明

休憩(14:30-14:40)

周生期学部(14:40-16:00)

1. 東雄二郎 周生期学部の研究概要とその成果について
2. 中西圭子 脳障害モデルに移植したラット臍帯血幹細胞の分化
3. 高木 豪 ヒトSchnurri-2変異による情動特性変化の顕在化への環境要因の影響の検討—モデルマウスを用いて—
4. 時田義人 WNTシグナルの変異に起因する先天性疾患について

3月9日(木)

神経制御学部(9:00-11:20)

1. 永田浩一 部門の概況、および臨床施設との共同研究の現状について
2. 田畑秀典 血管をガイドとした大脳皮質アストロサイト前駆細胞の移動とその重要性
3. 伊東秀記 自閉症関連分子MACROD2の性状・機能解析
4. 水野 誠 大脳皮質形成におけるMED13Lの役割
5. 野田万理子 シグナロソーム構成分子COPS7Aの大脳皮質形成における機能解明
6. 茨木京子 大脳皮質形成における時計遺伝子Per3の機能解析
7. 浜田奈々子 大田原症候群の原因遺伝子Munc18-1の皮質神経細胞移動における役割

休憩(11:20-11:30)

教育福祉学部(11:30-12:10)

1. 竹澤大史 自閉症スペクトラム障害(ASD)のある幼児の養育者を対象としたペアレントトレーニングの効果
2. 長谷川桜子 障害児(者)を分け隔てなく診療する医師を育成する教育について

休憩(12:10-13:30)

遺伝学部(13:30-15:10)

1. 若松延昭 本年度の遺伝学部の研究概要とその成果
2. 福士大輔 染色体の構造異常が見られる知的障害の病因解明
3. 山田憲一郎 SLC19A3欠損症の病態解明とチアミン治療の検証
4. 加藤君子 Xq27q28欠失女児例のX染色体の不活性化解析
5. 鈴木康予 *PIK3CA*-related overgrowth spectrum (PROS)に対する *PI3K/AKT/mTOR* シグナル阻害剤の治療効果

休憩(15:10-15:15)

所長（15：15－15：35）

1. 細川昌則 この1年の研究所活動

副所長あいさつ（15：35-15：40）

年間優秀論文賞発表（15：40-15：45）